

— セント・ルカ産婦人科 —

# ルカ新聞

 No.10  
 2004.12.


槍ヶ岳

## 向日葵

— 神はご自分にかたどって人を創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福されて言われた。「見よ、全地に生える草と実をもつ木をあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなどすべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」そのようになった。神はおつくりになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めてよかった。夕べがあり朝があった。第6の日である。

— 創世記1章27-31節  
 神様はご自分の作られたこの世を「良し」とし、大変ご満足されました。そして翌日はご自分の仕事を離れ、お休みになりました。よって7日目は日曜日になりました。この後、神様と人類の間にはさまざまな出来事が起こります。時には神様のわがままや勘違いもありましたが、ほとんどが人類のほうに犯した罪によるものです。しかし、この創世記に述べられているように神様はこの世を「良し」とされたのです。この世は祝福されています。しかし人間の勝手な欲望によっていろいろな出来事が起こります。その結果、悲しい事件や戦争が起こっています。でも基本的にはこの世と人間は祝福されているのです。

— ぶどう園のたとえ話—あるぶどう園の主人が労働者を雇うため、早朝、広場に出かけて行って1日1デナリオンで契約し、労働者はぶどう園で仕事をしました。昼ごろまた広場に行くことになった。雇われたものがいたのでまた雇った。夕方行くともたあふれたものがいたので雇った。さて1日の仕事が終わって主人はこの全員に同じ1デナリオンを支払った。朝から働いていたものは夕方来たものと同じ金額なので不公平だと怒った。しかし、主人は「あなたは私と1日1デナリオンと約束したのではないか。私は昼にもまた夕方来たものにもそうしたいのだ。」

— マタイによる福音書20章1-16節  
 私たちは救われています。神様は私たちに祝福してください。それを信じていきたいと思えます。





院長 宇津宮 隆 史

## ルカ新聞10号の 発行にあたって

このルカ新聞も10号を発行することになりました。不妊症診療に携わって32年、さまざまなことが思い出されます。不妊診療にはいくつかの革命的出来事がありました。まず、1971年にホルモンの測定が広まり、脳下垂体ホルモンの構造式が決定され、それによって内分泌学が飛躍的に発展し、排卵誘発は格段の進歩を遂げました。ちょうどそのとき私は医学部を卒業し、別府の温研(現・生医研)に入局しました。そして不妊症をメインにして学んできました。ホルモンに比べ、卵管の問題は解決が困難でした。卵管閉塞の場合は手術が困難で、脳外科用の手術顕微鏡で片方の卵管に4時間もかけて手術していました。しかし妊娠はうまくいかない場合が多く、そのような患者さんを今でも思い出します。ところが1978年にイギリス・ボーン・ホールクリニックで体外受精が成功し、ルイズ・ブラウンちゃんが生まれました。これは不妊治療の2番目の革命的な出来事でした。そして日本でも1983年に第1号が生まれ、いよいよ日本も体外受精が広まるかと思われましたが、初期のころは倫理問題が声高く論じられ、大きな大学病院だけの研究、治療が可能で、肝心の患者さんの気持ちは外に置かれていました。その後、徐々に一般病院でも試みられるようになりました。なぜならもう、体外受精の技術、知見で得られる新しい成果は少なくなって大学は関心を持たなくなってきたからです。そのころ(1992年6月3日)私はこの病院を開設し、不妊治療を中心にやっていくことを決心しました。運良く、当時はバブル期で一文無しの私にも銀行はお金を貸してくれました(今では絶対無理です)。そして夢に見た体外受精を用いた治療を始めました。これで卵管が原因の患者さんを救えると喜んだものです。そして1992年10月6日、念願の第1号妊娠が成功しました。その赤ちゃんはすくすくと育ち、いまや中学生で、とてもかわいい、活発な女の子で、絵画でも県の代表になったり、ピアノのコンクールで優秀賞をとったりと大活躍しています。その後は徐々に体外受精で生まれる赤ちゃん

が増加しました。しかし当時、成功例が増えていく中、精子の問題の解決が困難でした。そのとき1992年にベルギーで顕微授精が成功したと報告され、私たちがブリュッセルまで研修に行きました。これは不妊治療の第3の革命的な出来事であると実感しました。何しろ精子が1匹でもいれば赤ちゃんが望める時代がやってきたのですから。そして私たちが早速顕微授精の研究に入り、1994年4月、顕微授精での妊娠に成功し、双子が生まれました。そしていまや、当院の体外受精・顕微授精で生まれた赤ちゃんは1,300人を超えました(2004年3月31日現在)。しかし現在では体外受精を行う患者さんの平均年齢は37歳、そのうち6-7割が顕微授精であり、また、5-6割が5回以上の体外受精にチャレンジしている現状です。このように今は妊娠困難な患者さんが増加してきています。

さて、これから、この不妊症の治療分野ではこれらのホルモン測定、体外受精、顕微授精に匹敵する革命的進歩は起きていません。一時、胚盤胞期移植がもてはやされましたが、これは条件のよい患者さんにはよい成績が得られますが、全体と比較すると差はありません。むしろ長期間、胚を体外に置くことの影響が危惧されます。

このような現況下、最近考えることは、以前にも述べたように不妊診療のサポートには3つの柱があるということです。1つめは医学、技術的なサポートでこれは以前から盛んに行ってきたこと。2番目は患者さんの経済、社会的なサポート。これについては、私たちはあらゆる機会を通じてこの現実を世間に訴え、またとくに不妊治療の健康保険適用を訴えてきました。これは幸いにも私たちの署名運動が釘宮 盤衆議院議員(現大分市長)の目に留まり、5回にわたる衆議院委員会質問、要求によって全国で補助金が交付されるようになり、その後、釘宮先生は大分市長になられて早速補助金を20万円くださる決定をしてくださいました。この金額は大きな都市では日本が一番高額です。しかし補助金ではまだまだ不足です。不妊





症は「病気」なので保険適用されるべきです。釘宮先生のアドバイスで過去2回の国会請願を行いました。そして先週(11月18日)には第3回の国会請願を終了しました。今後も保険適用されるまで永遠に不妊患者さんへのサポートであるこの運動を続行します。

最近わかってきたことは、厚生労働省の役人は(これはお役所どこでも同じでしょうが)専門家集団、例えば医師会や不妊学会などの要求には冷淡で聞く耳を持たない場合が多いのですが、一般市民、患者さんたち、住民などが要求すれば重い腰をすぐに上げる傾向にあります。例えば薬害エイズでも患者さんが前面に出てきたら急転直下、解決しました。いまや、不妊患者さんも自分たちで行動するときです。恐らく2-3回でも国会にデモ行進してマスコミに報道されれば体外受精の保険適用など簡単にできるでしょう。しかしそのような行動は容易にはできません。そこで今では東京を中心に患者さんの会が活動を始めました。「Fine(Fertility Information Network)の会」です。だからみなさんもこのFineの会に参加してください。パンフレットは常時待合室においてあります。またこの会の代表・松本亜紀子さんの著書も備えてあります。これは大変元気に不妊治療を進めることができるようになる楽しい本です。

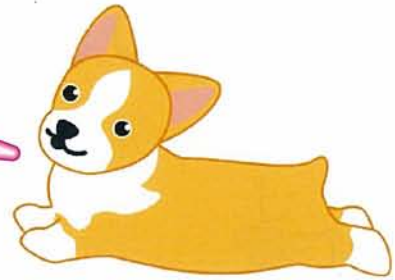
さて、3番目のサポートは精神的、心のサポートです。不妊症の患者さんはさまざまな悩みを持っています。これはある程度は私たちスタッフで対応できますし、大部分は『情報提供』で済みます。しかし昨今の風潮でしょうか、夫婦の問題、生き方、セックス、子供について、などなどさまざまで、中にはとくに心理的にめいつている患者さんも見受けられます。そこまでに陥ると私たちでは対応できませんでした。そこで心理の専門家の登場です。当院ではこの観点から心理学を学んだ専門のカウンセラーが必要であると認識し、2001年から心理士の上野桂子先生に来てもらっております。その結果、いろいろ

な新しい、専門的な観点からのアプローチができるようになりました。多くの成果はそのまま患者さんへのサポートに直接利用させていただき、また、新しいプログラムも積極的に取り入れ、多くの患者さんの心の支えになってきております。

最後に不妊治療にどう向き合っていくかです。それについては当院の患者さんとの会話などで徐々にわかってきたことがあります。それは、患者さんはこの治療を「自分たち夫婦だけ」の問題として、しかもそれを前向きに積極的に考え、いくつもある自分たちの生活の中の一場面として捉え、時にはそれ以上に価値のあることがあれば不妊治療をおいといてそちらを楽しむ。そしてこの治療をご夫婦の人生の一コマとし、心置きなく実行し、その後の人生につなげてゆく。お二人で歩む人生の1ページにすることです。人生すべてを不妊治療にとられるのはもったいない。ほかにもっとしたいこともある。それを我慢せず、また時には我慢して不妊治療に臨む。そのようにご自分で治療の計画を組み立ててください。私たちは患者さんの希望にはできるだけ添えるようにします。少しでも妊娠の可能性があるなら、そして患者さんが希望すればすべて引き受けます。しかしその可能性をどう受け止めるかは患者さんの気持ち次第です。「そんなに可能性が少ないなら治療しない」と決められても結構です。また、「1%でも可能性があるならしたい」といわれるならお引き受けします。不妊治療には奇跡的なことはいっぱいあります。そしてその結果はその場では理解できないことも多々あります。最先端医療といっても、私たちはただ単に精子や卵子を引き合わせているだけです。その後は神様のなさることです。その結果、妊娠したり、しなかったり。そのような不妊治療なのです。お二人の人生ですから後で後悔しないよう、治療をご自分のものにしていただきたいと思えます。幸いにも私たちは神様に許されてそのための小さなお手伝いができているだけなのです。

# 🎁🎁 研究室だより 🎁🎁

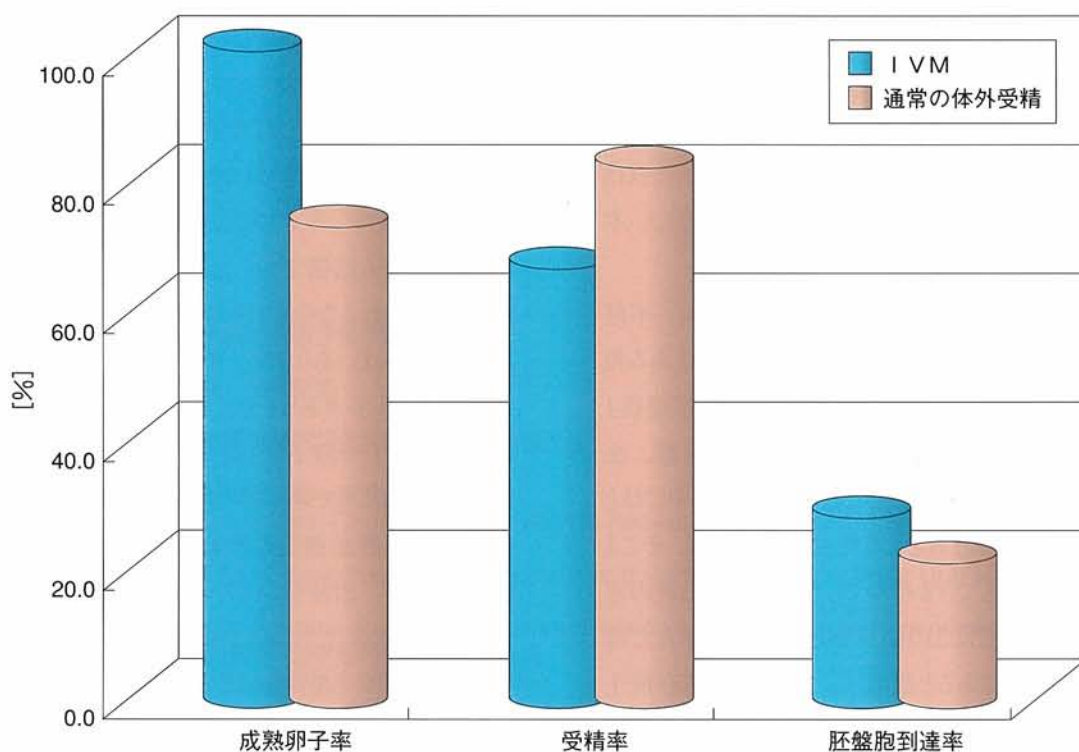
## IVMってなあに？



研究室 佐藤 千賀子

現在行われている体外受精は、卵巣刺激を行うために卵子を育てるためのhMGと卵子を成熟させるためのhCG注射が必要になります。また、これらの高価な注射は長期間に渡っての多量な投与が必要です。そうすると卵巣に負担をかけてしまい、卵巣過剰刺激症候群(OHSS)になってしまう可能性があります。そこで、最近ではhMG投与が少なく、体への負担が軽減される体外成熟培養(IVM)という技術が注目されてきています。成熟した卵子を採卵する通常の体外受精と異なり、IVMでは未熟な卵子を採卵します。体内で行われる卵の成熟を体外で行うため、hMG投与が少なく、体への負担も減少するというわけです。一般に卵子がたくさんできてしまう方や、卵子ができにくい方に適しているとされています。しかし、IVMは、高度の培養技術が必要なため、ほとんどの施設では行われていないのが現状です。しかし、当院では広島大学の島田昌之先生と醍醐渡辺クリニックの森崇英先生との共同研究により、培養技術の確立に成功しています。このグラフは腹腔鏡検査施行時の採卵で行われた方の成績を示しています。グラフに示すようにIVMと通常の体外受精では卵子の成熟率や受精卵の発育率は変わりません。当院ではすでに臨床応用されています。

IVMと通常の体外受精の比較





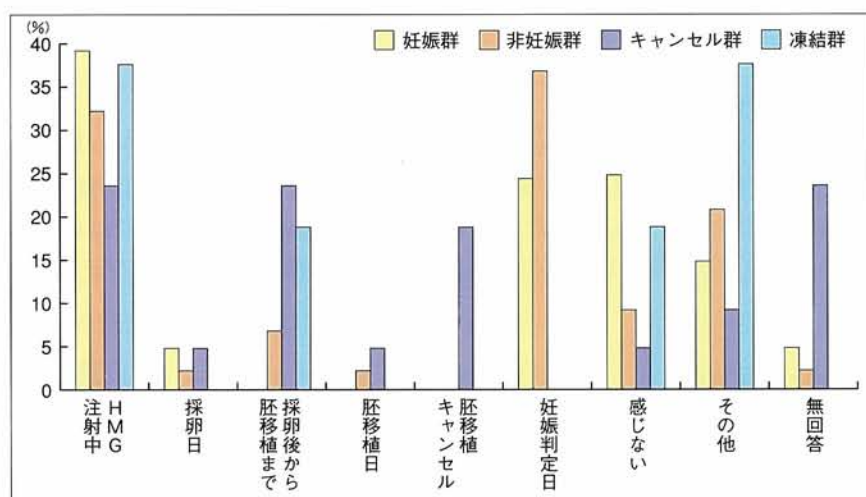
# 看護部だより

## ART周期の各時期におけるストレス度の変化

看護部 江藤 貴美

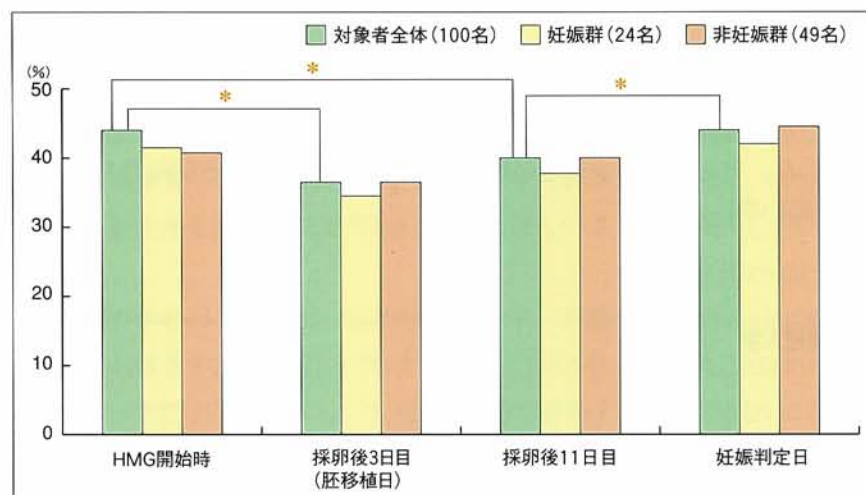
今回は、ART(体外受精)周期の精神的、肉体的ストレスの変化や、ストレスと妊娠との関係について調査したので報告します。

### 1 治療中、最もストレスを感じたのはいつですか？



最もストレスを感じた時期について質問した所、hMG注射中と妊娠判定日にストレスを感じたものが多くみられました。また、ストレスを妊娠群と非妊娠群で比較すると、妊娠群ではストレスを感じていないものが非妊娠群の倍以上という結果となりました。

### 2 NK細胞活性の変化



このグラフは、一般的にストレスを感じると低値を示すとされている、NK細胞活性値を測定した結果です。hMG開始時と妊娠判定日の値が高く、採卵後3日目が有意に低くなっていました。



### (ま と め)

妊娠群では、生活環境、ストレス解消法などの工夫により、ストレスを溜めずにART周期を過ごしている傾向が見られました。また、ストレス度と反比例するといわれるNK細胞活性は、実際にストレスを感じた時期と逆の変化を示しました。このことより、不妊患者ではNK細胞活性は一般のストレス時と異なった変化を示すことが示唆されました。



# セント・ルカに 強力な助っ人がやって来ました!

ね ぎ し ひろあき  
根岸 広明 先生です。



## Q. 出身はどちらですか？

群馬県館林市です。関東平野の真ん中に位置し海なし山なしの場所です。夏は茹だるような暑さ、冬は空っ風と、温暖な大分の方には住みにくい地域と思います。御伽噺の文福茶釜の狸のと言えれば御存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。

## Q. セント・ルカに来ることになったきっかけは？

医師として活躍できる残りの約20年間に不妊症治療に専念したいと思い、その勉強のために来ました。不妊症治療と言いますと兎角体外受精に走りがちな昨今ですが、院長曰く『体外受精は患者さんにとって身体的、精神的、また経済的にも大きな負担になるので、最終手段である。』というところに表れておりますように、当院では体外受精にすぐに走ることなく、段階を踏んだ正しい不妊症の治療がなされていることに魅力を感じ本施設を選びました。

## Q. セント・ルカの印象や感想

当院で働き始めて感じたことは、多忙で仕事量が多いということです。これは、院長はじめスタッフ全員が地域における社会的役割（敢えて言えば「責任」）を自覚なさっているからできることなのではと思われます。大分県のみならず他県からも患者さんが訪れるのは、周辺に不妊症専門の施設が少ないことが理由の一つにあげられるかと思いますが、そのような地域性の中で、できるだけ多くの患者さんを治療しようという自負（自負だけでは努めることではないと思います。おそらく不妊治療が好きなのだと推察します。）がなせるものでしょう。

ここに赴任して初めて、患者さんにとって不妊治療が大きな経済的負担になることが実感されました。20年近く、公的病院で働いてきて、社会補償制度の幾つかの矛盾は感じておりました。ちゃんと税金を払っている国民でありながら、不妊症治療を受けるのに健康保険が適用されないという現実があります。この度、不妊症治療の医療制度が少し分かるようになり、今までとは別の意味で矛盾を感じております。不妊症は生命を脅かすものではありませんが、子供が欲しい患者さんにとって、精神的には難病にも匹敵する程の厄介な病気であると思います。少子化は問題であると認識している国の方針としては、その援助の少なさには驚かされました。そして、医療を提供する側も大きな負担に喘いでいることが実感されました。そんな中で少しでも患者さんの役に立ちたいと望んでおります。これからしばらくお世話になりますが宜しくお願い申し上げます。

## ●学歴・職歴

|          |  |
|----------|--|
| 昭和56年 4月 | 北海道大学医学部医学科医学専門課程入学  |
| 60年 3月   | 同上 卒業  |
| 7月       | J R東京総合病院 内科研修   |
| 62年 3月   | 同上 終了  |
| 4月       | 北海道大学大学院医学研究科外科系専攻博士課程入学   |
| 平成 3年 3月 | 同上 卒業  |
| 4月       | 北海道大学医学部付属病院 産婦人科勤務  |
| 平成 5年 6月 | The Population Council Center for Biomedical Research, New York U.S.A.                   |
| 6年 6月    | 北海道大学医学部付属病院 産婦人科 復職   |
| 9年 1月    | 文部省短期在外研究 (Department of Obstetrics and Gynecology Göteborg University, Sweden)          |
| 3月       | 帰国   |
| 10月      | Reproductive Sciences Department of Obstetrics and Gynecology University of Utah, U.S.A. |
| 12年10月   | 北海道大学医学部講師・医学部付属病院病棟医長<br>(13年5月-14年5月北海道大学産婦人科医局長)                                      |
| 15年 2月   | 国家公務員共済組合連合会 幌南病院 産婦人科医長   |
| 16年10月   | セント・ルカ産婦人科にて勤務   |



# 🎄 受付より 🎄

新しいスタッフを紹介いたします。

8月よりお手伝いに入っていた足立小百合さんが、この11月よりセント・ルカの新しい受付のスタッフとして加わることになりました。足立さんは元保育士としてご活躍されていた方です。今までの受付では見落とししていた点も新しい視点で、力になっていただけると私共も期待しております。気持ちの優しい人です。どうぞお気軽にお声をお掛けください。

さて皆様、不妊治療の助成金の申請はお済みでしょうか？今年の4月から来年の3月までが今年度の対象となります。11月末までに申請をされた方は、大分県に57名、市町村に41名です。人工受精か体外授精をしている方でまだ申請をしてない方は領収書の見直しをお勧めいたします。申請書に添付する領収書はこちらでご用意いたしますので、今お持ちの領収書は確定申告でご使用ください。内容の詳細につきましては院内の掲示板に掲示中です。どうぞご参照ください。また、分かりにくい点等、質問がありましたらなんなりと受付にお聞きください。少しでも皆様のお役に立てることかと思えます。

新しいスタッフも迎え、更なるサービスの向上に努めたいと思っております。新スタッフ含め、受付一同宜しくお願い致します。

(受付・渡邊)

## 心理相談室より



2004年10月より、心理士相談が毎週2回から3回になりました。どんな悩み事や相談でも構いません！又、特別な悩みがなくても、何か話したいなと、思うときにでもいいです。気軽にいらしてください！

心理士相談……毎週 火、金、土(予約制)

外来の相談係……随時

何でも相談……随時、主に毎週土曜日午後(予約制)

## 新患教室が 始まりました！

2004年6月から毎月1回、当院の多目的ホールにて、院長みずから、新しい患者さん方を対象に、不妊についての話しや治療方針の講義をしています。新患の方だけでなく、現在治療中の方でもいつでも何回でも参加OKです。



受付  
足立 小百合

以前の仕事とは、まったく違う仕事で、毎日が勉強の日々です。一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

NEW 職員紹介



看護部  
相良 聖子

婦人科勤務は初めてです。分からない事ばかりですが、1つずつ勉強しながら頑張ります。



## 2004年 後期を振り返って

|   |   |
|---|---|
| <p>07.01 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>07.03 第87回体外受精教室 参加者28名 参加〈那須、佐藤島、足立、関、相良、門屋〉</p> <p>07.05 佐世保共済病院(長崎)新立幸男先生 院内見学のためご来院</p> <p>07.05 片岡レディースクリニック(熊本)小牧麻美先生 院内研修のためご来院</p> <p>07.07 第6回ISO9001委員会会議</p> <p>07.08 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>07.09 夜間防災訓練</p> <p>07.10 第33回女性心身医学会学術集会(栃木) 発表〈原井〉 参加〈上野〉<br/>「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理的ケアのあり方」<br/>「サポート・グループの取組みについて」(原井淳子)</p> <p>07.10 日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会世話人会 参加〈院長〉</p> <p>07.11 九州医師会共同施設協議会(宮崎) 参加〈院長〉</p> <p>07.13 ISO9001取得のための研修(レディースクリニック京都) 参加〈城戸、江藤、渡邊〉</p> <p>07.13 第87回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>07.14 大分看護科学大学 講義<br/>「不妊症講座」(院長)</p> <p>07.14 第7回ISO9001委員会会議</p> <p>07.15 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>07.15 生体バイオロジー 東京シンポジウム(東京) 発表〈院長〉 参加〈公文、平井〉</p> <p>07.18 「安全なストローを用いた2PN胚凍結法と Implantation Window を考慮した胚融解日変更の効果」(院長)</p> <p>07.21 第8回ISO9001委員会会議</p> <p>07.22 広島大学大学院生物園科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導</p> <p>07.22 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>07.24 第19回「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座<br/>(大分・ト十八会館) 参加者55名講師(院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生)<br/>参加〈平松、工藤由、藤田、那須、城戸、篠田、相良、門屋、河野、工藤美、赤嶺、上野、指山〉</p> <p>07.22 新職員 足立小百合さん(受付)</p> <p>07.29 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>07.31 第88回体外受精教室 参加者39名 参加〈那須、佐藤島、足立、関、相良、門屋、河野、工藤美〉</p> <p>08.02 第9回ISO9001委員会会議</p> <p>08.05 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>08.07 第1回治療を終結した方のお話<br/>参加者17名 参加〈平松、工藤由、篠田、関、足立、工藤美、品矢、上野〉</p> <p>08.11 第10回ISO9001委員会会議</p> <p>08.12 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>08.17 第11回ISO9001委員会会議</p> <p>08.18 大分市母子保健衛生小委員会 参加〈院長〉</p> <p>08.19 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>08.21 第2回新患講座 参加者27名 参加〈平井、篠田、相良、赤嶺、江藤〉</p> <p>08.26 広島大学大学院生物園科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導</p> <p>08.26 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>08.28 第89回体外受精教室 参加者38名 参加〈那須、城戸、足立、関、門屋、斉高〉</p> <p>09.02 第49回日本不妊学会(北海道)発表〈江藤、上野〉 参加〈院長〉<br/>「ART 周期の各時期におけるストレス度の変化」(江藤貴美)</p> <p>09.02 「ART 周期における不妊症患者の心理的ストレスとその影響要因について」(上野桂子)</p> <p>09.02 第22回日本受精着床学会(北海道)発表〈佐藤千、公文、平井〉 参加〈長木、熊田、院長〉<br/>「ヒトIVMにおけるプロゲステロン添加は卵子成熟と卵丘細胞の脱落を促進する」<br/>(佐藤千賀子/世界体外受精記念賞候補課題)</p> <p>「体外受精における非受精卵の前核形成阻害原因の解析」(公文麻美)</p> <p>「ヒト胚における前核期形態評価の有用性」(平井香里)</p> <p>受精・胚発育Ⅱ巻〈院長〉</p> <p>09.02 第49回日本不妊学会/第22回日本受精着床学会ブース展示(北海道)〈平松、工藤由〉</p> <p>09.04 日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会世話人会(北海道) 参加〈上野、院長〉</p> <p>09.08 第23回心理臨床学会 参加〈上野〉</p> <p>09.09 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>09.10 ISO9001概要説明会 日本LCA 田中氏御来院</p> <p>09.11 羽治安田 秋季講座Ⅰ 乳幼児精神保健講座(東京) 参加〈工藤美、上野、院長〉</p> <p>09.12 第3回新患教室 参加者17名 参加〈那須、長木、篠田、門屋、赤嶺、指山〉</p> <p>09.14 第88回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生</p> <p>09.16 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>09.18 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加〈院長〉</p> <p>09.18 第23回インターネットサクル CG1名、参加者7名</p> <p>09.21 広島大学大学院生物園科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導</p> <p>09.25 アルメイダ病院 QC 発表大会(大分) 参加〈渡邊、松元、門屋、江藤、原井、指山〉</p> <p>09.26 ARMT フォーラム(東京) 発表〈公文〉 参加〈長木、院長〉<br/>「当院の汚染体験と感染予防法」(公文麻美)</p> <p>09.30 国会議院に対する再度の協力依頼発送 女性議員のみ</p> <p>09.30 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>10.02 「HIV 感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」<br/>研究成果発表会(大分)<br/>参加〈工藤由、佐藤島、公文、相良、門屋、斉高、上野、指山、院長〉</p> <p>10.07 第12回ISO9001委員会会議</p> <p>10.07 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>10.09 第90回体外受精教室 参加者40名 参加〈那須、佐藤千、相良、門屋、河野、足立〉</p> <p>09.30 国会議院に対する再度の協力依頼発送 男性議員のみ</p> <p>10.14 第13回ISO9001委員会会議・ISO9001概要説明会<br/>参加〈平松、工藤、藤田、渡邊、那須、城戸、長木、門屋、江藤、柴田、指山〉</p> <p>10.14 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>10.15 第20回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会(大分)<br/>参加〈平松、渡邊、那須、佐藤島、城戸、熊田、長木、松元、相良、門屋、工藤美、恵良、斉高、柴田、上野、指山〉</p> <p>10.15 Kyushu Regional Office 10<sup>th</sup> Anniversary-ORACLE TORNADOI-(福岡) 参加〈工藤〉</p> <p>10.16 病院研修 根岸広明先生(1年間)</p> | <p>10.16 第5回第1期・第2期合同オリーブの会 参加者4名</p> <p>10.19 第69回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>10.21 第14回ISO9001委員会会議</p> <p>10.21 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>10.23 第91回体外受精教室 参加者24名 参加〈公文、関、門屋、斉高、根岸〉</p> <p>10.28 第15回ISO9001委員会会議</p> <p>10.28 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>10.30 第20回「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座<br/>(大分・ト十八会館) 参加者46名 講師(院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生)<br/>参加〈平松、工藤由、渡邊、那須、公文、篠田、江藤、赤嶺、上野、指山、根岸〉</p> <p>11.01 第3回国会議院のため請願書及び署名簿を紹介国会議員へ郵送(53名)</p> <p>11.04 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>11.04 根岸広明先生歓迎会(大分)</p> <p>11.04 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>11.06 第7回日本IVF研究会 参加〈佐藤島、城戸、院長〉</p> <p>11.09 第70回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>11.09 Sarah Base 取材 All About Japan 池上尋さん</p> <p>11.10 片岡レディースクリニック(熊本)大迫亮子先生 院内研修のためご来院</p> <p>11.11 第16回ISO9001委員会会議</p> <p>11.11 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>11.13 日本受精着床学会理事会(東京) 参加〈院長〉</p> <p>11.13 日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会世話人会(東京) 参加〈上野、院長〉</p> <p>11.16 ISO9001キックオフミーティング 日本LCA 田中氏御来院</p> <p>11.16 アシストフォーラム2004in福岡～博多秋祭り～(福岡) 参加〈工藤由〉</p> <p>11.17 片岡レディースクリニック(熊本)野村由香理先生 院内研修のためご来院</p> <p>11.18 funin.info (wish ママになりたい) 病院取材</p> <p>11.18 大分市医師会学会 発表〈城戸、公文、門屋、恵良〉<br/>参加〈平松、工藤由、那須、佐藤島、佐藤千、平井、長木、足立、関、松元、篠田、二宮、斉高、上野、指山、根岸、院長〉</p> <p>「当院における体外受精教室の現状～教室前後の質問紙調査から～」(門屋英子)</p> <p>「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)</p> <p>「ストローを用いた安全なガラス化急速凍結法」(公文麻美)</p> <p>「体外受精妊娠困難症例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された精子を用いた顕微授精の新しい試み」(城戸京子)</p> <p>11.18 金沢医科大学産科婦人科学講座 牧野田知先生他1名 施設見学</p> <p>11.18 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>11.19 豊橋市民病院不妊センター-菅沼信彦先生他3名 施設見学</p> <p>11.20 第92回体外受精教室 参加者39名 参加〈長木、足立、関、斉高〉</p> <p>11.25 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>11.26 第3回国会議院終了</p> <p>12.02 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>12.04 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加〈院長〉</p> <p>12.05 RTAC 監査のための勉強会(東京) 参加〈大津、指山、院長〉</p> <p>12.05 受精着床学会 実地調査委員会準備会 参加〈院長〉</p> <p>12.06 上野先生 看護科学大学の講義</p> <p>12.09 大分市医師会理事会参加〈院長〉</p> <p>12.11 第4回新患教室</p> <p>12.16 ISO 委員会会議 日本LCA 田中氏御来院</p> <p>12.16 大分市医師会理事会 参加〈院長〉</p> <p>12.18 第93回体外受精教室</p> <p>12.22 院長先生 看護科学大学の講義</p> <p>12.22 忘年会</p> <p>12.25 クリスマス会(セント・ルカ多目的ホール)</p> <p>12.28 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院</p> |
|---|---|

**著書**

院長「胚の凍結保存」『産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療』(永井書店)

「2PN胚・胚盤胞期胚の安全なVitrification法と胚移植」『生殖医療のコツと落とし穴』(中山書店)

「不妊患者への精神的サポート・カウンセリングの方法」『生殖医療のコツと落とし穴』(中山書店)

「胚の凍結保存」『産婦人科治療 特集 必携 今日の生殖医療』(永井書店)

「培養液」『生命誕生に向けて-生殖補助医療胚移植士講習会テキスト-』(日本哺乳動物卵子学会)

「ARTと経済的負担」『産婦人科の世界56巻8号 特集/生殖医療が直面する倫理課題』(医学の世界社)

「胚移植の方法(新鮮胚、凍結胚)」『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)

〈熊田陽子〉「卵子・胚凍結-急速凍結法-Straw2」『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)

**論文**

院長「A Prospective, Randomized Study: Day 3 versus Hatching Blastocyst Stage.」  
Hum. Reprod. (Vol. 19 Number 7, 1598-1603, 2004)

「How many times should we try ART?」 Hum. Reprod. (投稿中)

「Transfer of Embryos Vitrified and Thawed by Ascertain Synchronicity between Embryonic Development and Endometrial Maturity to Determine the Implantation Window.」 Hum. Reprod. (投稿中)

〈熊田陽子〉「感染防止のためストローを用いた前核期胚 vitrification 法による妊娠成功について」  
臨床婦人科産科 (Vol. 57, No. 12 1576-1579, 2003)

「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen.」 J Assist Reprod Genet (in press)

〈大津英子〉「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos derived from larger single pronuclei of human zygotes used in vitro fertilization.」  
Fertil. Steril. (Vol. 81, No. 3 pp723-724, March 2004)

〈公文麻美〉「感染に対して安全な vitrification 法のマウス前核期胚における検討」  
「A Vitrification Method by Means of a Straw to Prevent Infections in Mouse Pro-nuclear Embryos.」 J. Mamm. Ova Res. (Vol. 20, 124-128, 2003)

臨床婦人科産科 (Vol. 57, No. 12 1571-1575, 2003)

「体外受精後未受精卵であった「前核期阻害の原因解析」日本哺乳動物卵子学会(投稿中)

**妊娠報告件数**

(2004.7.1~2004.11.30)

体外受精、顕微授精等

**50件**

\*

その他(体外受精以外)

**67件**

**計 117件**

**編集後記**

最近、外来で院長以外のDrをお見かけすると思いますが、今年の10月より当院にお迎えしている根岸先生です。先生は、北大出身で、留学経験もあり、卵巣生理について、研究してこられたそうです。とても勉強熱心で優しい先生です。

先生が来られたことで、外来診察では、院長にゆとりがなくなり、患者さん方の待ち時間が短縮されたのではないのでしょうか！私達スタッフにとっても、心強い先生です。ずっとここにいてくださればと、思いつつ……。

